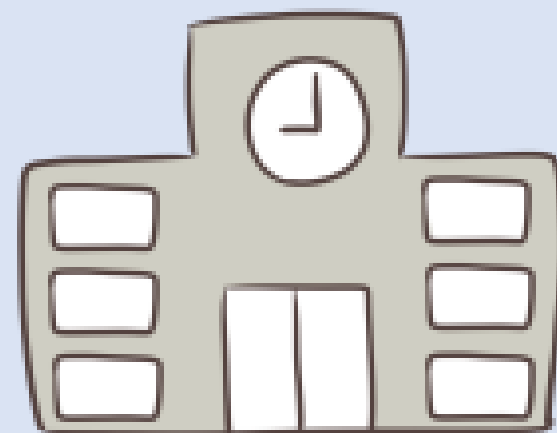


2022.3.27

「小学校のあり方について」

白萩西部校区 懇談会



小学校の適正規模等への見解

(適正規模等)

○望ましい学級数

1学年1学級以上を原則とする。

○望ましい1学級の児童数

同一学年で15名から25名程度を標準とする。

○望ましい通学距離と通学時間

徒歩通学において、学校を中心に直線距離で半径2km程度（実通学距離で2～3km程度）、通学時間にして徒歩では30～40分程度以内が望ましい。



(学校規模によるメリット・デメリット) 小規模校

| | メリット | デメリット |
|------|--|---|
| 小規模校 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一人ひとりの学習や生活の状況を把握しやすく、個別にきめ細かな指導が行いやすい。 ・学習や学校行事において、発表する機会やリーダーを経験できる機会が多くなる。 ・異学年間の交流機会が多く、学年を問わず児童相互の関係性が深まりやすい。 ・体験的な学習や校外学習を機動的に行いやすい。 ・学校が一体となった活動がしやすい。 ・教職員間の意思疎通・共通理解が図りやすく、相互の連携がとりやすいことから、課題への迅速な対応がしやすい。 ・施設や設備の利用時間等の調整が行いやすい。 ・地域や保護者との意思疎通、連携が図りやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えに触れ、学び合い、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・クラス替えができないことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・集団での経験を積みにくく、社会性やコミュニケーションの能力が身につみにくい。 ・運動会などの学校行事や音楽や体育などの学習活動に制約が生じやすい。 ・グループ学習などの多様な学習・指導形態が取りにくい。 ・複数の教職員による教材研究や教科指導の研鑽が行いにくい。 ・一人の教職員が様々な業務に関わる必要がある。 |

(学校規模によるメリット・デメリット) 大規模校

| | メリット | デメリット |
|------|---|--|
| 大規模校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な考えに触れ、学び合い、切磋琢磨することを通して、個々の資質や能力を伸ばしやすい。 ・ クラス替えが可能となり、新たな人間関係や多様な集団の形成が図りやすい。 ・ 集団での経験を通して、社会性やコミュニケーションの能力を身につける機会が多い。 ・ 運動会などの学校行事や音楽や体育などの学習活動に選択肢が多く、活動の幅が広がやすい。 ・ グループ学習などの多様な学習・指導形態が取りやすい。 ・ 教職員数がある程度多くなることから、バランスの取れた教員配置を行いやすく、教材研究や教科指導の研鑽も行いやすい。 ・ 教職員個々の負担が比較的軽く、方法次第で、教職員の組織的な協力が得やすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員による児童一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・ 学習や学校行事において、発表する機会やリーダーを経験できる機会が少なくなる。 ・ 異学年間の交流機会が不十分になりやすい。 ・ 体験的な学習や校外学習の設定が限定的になりやすい。 ・ 教職員間の意思疎通・共通理解が図りづらいことも生じ、相互の連携が進まず、孤立する教職員も出てくる。 ・ 施設や設備の利用時間等の面から、学習活動に制約が生じる場合がある。 ・ 地域や保護者との意思疎通、連携が難しくなりやすい。 |

(学校の統廃合、
再編を進める上で考慮すべきこと)

- 町教育委員会や教職員はもとより、地域や保護者との共通理解のもと、授業の形態や教育環境について、**再編、統廃合により新しい学校を創っていこうという意識の醸成**が必要となること。
- 「**地域とともにある学校づくり**」の観点から、地域や保護者との間で、**教育上の課題やこれからのまちづくりも含めた将来ビジョンを共有**し、十分な理解や協力を得ながら進めていくこと。



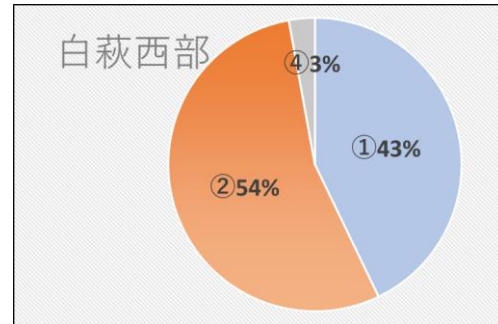
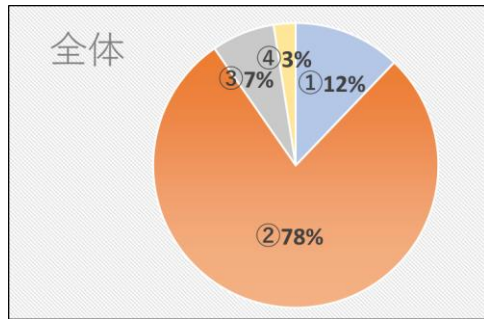
アンケート結果について



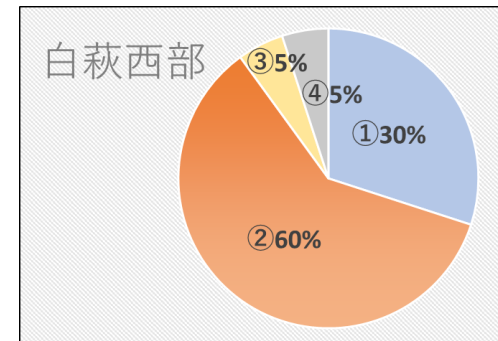
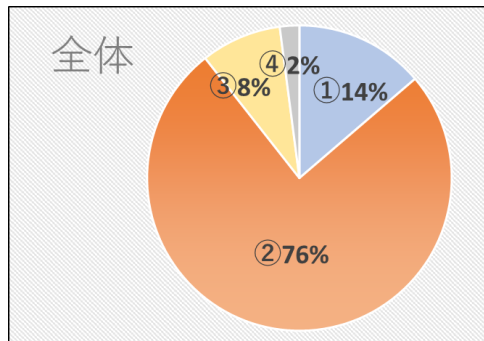
望ましいと思う1学級の児童数

- ① 15名以下の少人数
- ② 15名から25名程度
- ③ 30名以上
- ④ 回答なし又は複数回答

[小学校]



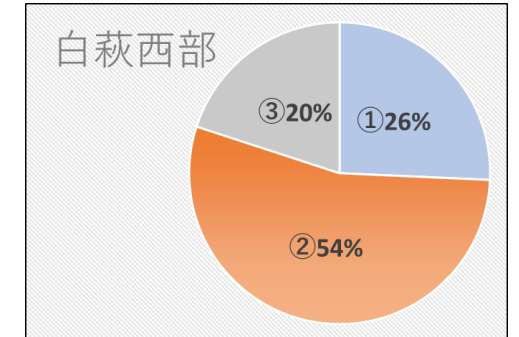
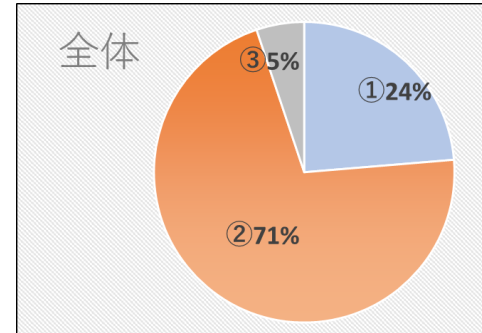
[保育所(園)]



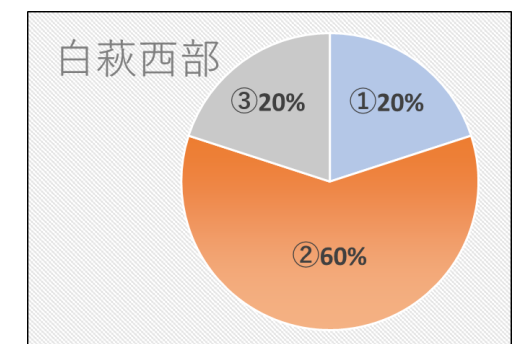
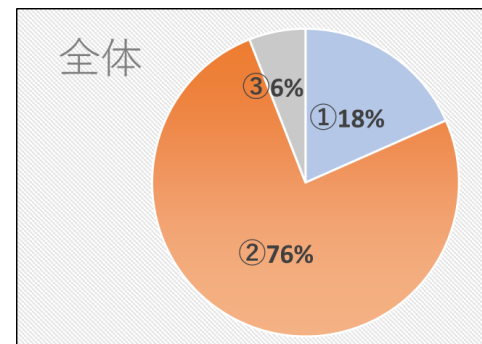
望ましいと思う1学年の学級数

- ① 1学年1学級 (6年間クラス替えなし)
- ② 1学年2学級以上 (毎年または2年に一度のクラス替えあり)
- ③ 回答なし又は複数回答

[小学校]



[保育所(園)]



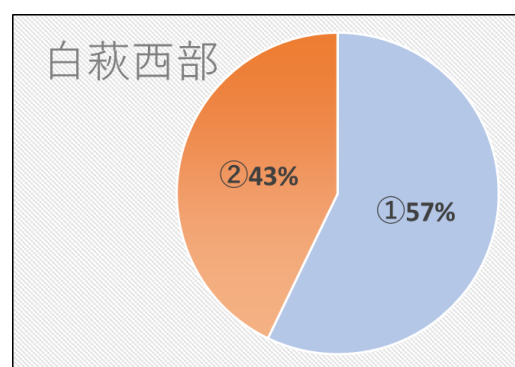
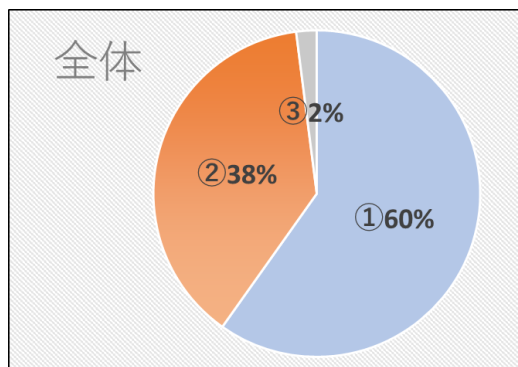
※① 15名以下の少人数で、かつ、複式学級でも良いとの回答は、全体では小学校・保育所(園)ともに3%、白萩西部校区では、小学校で14%、保育所(園)では10%となっている。



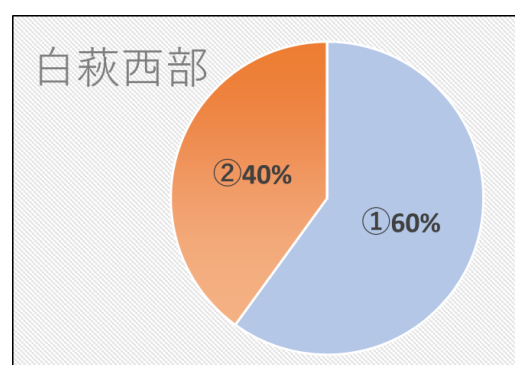
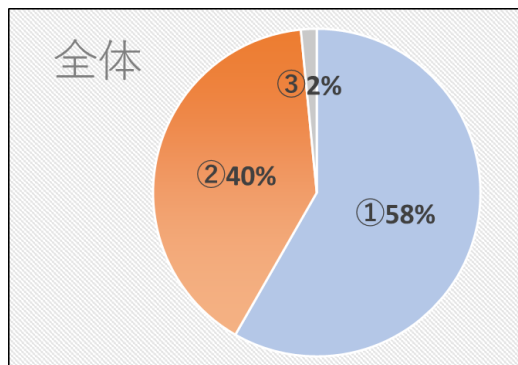
通学について

- ① 徒歩通学（概ね30分程度）をさせたい
- ② スクールバスでの通学で構わない
- ③ 回答なし又は複数回答

[小学校]



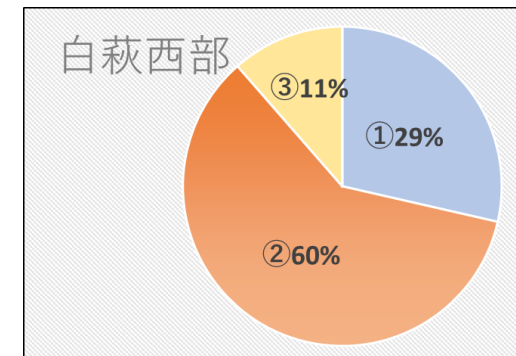
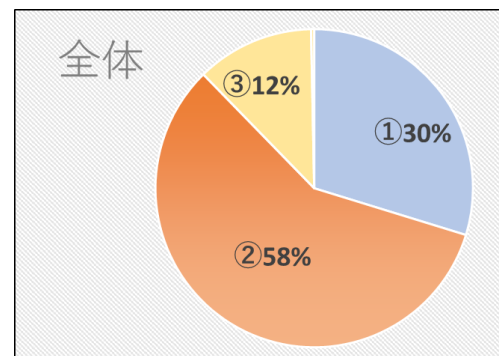
[保育所（園）]



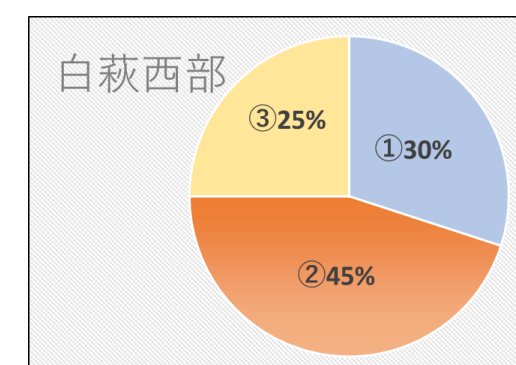
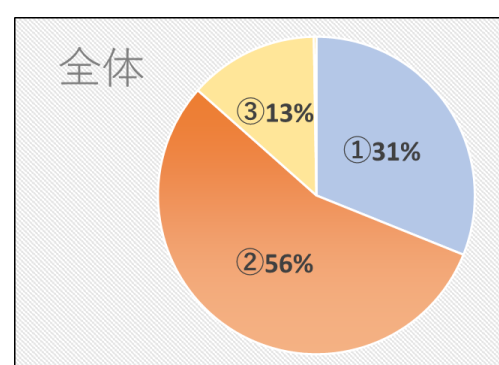
現時点で、あなたの考えに一番近いと思われるものは

- ① 今の小学校を維持してほしい
- ② 出来る限り維持してほしいが、再編、統廃合は仕方がない
- ③ 積極的に再編、統廃合を進めていくべき
- ④ 回答なし又は複数回答

[小学校]

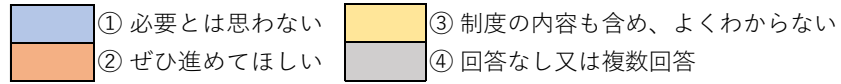


[保育所（園）]

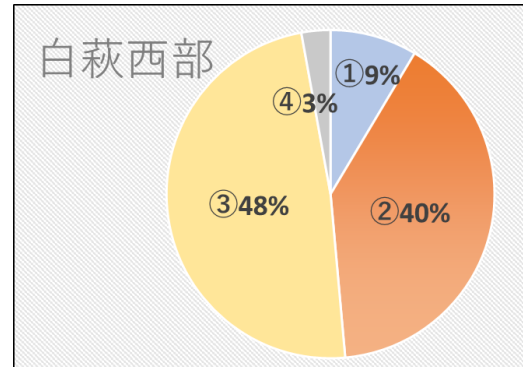
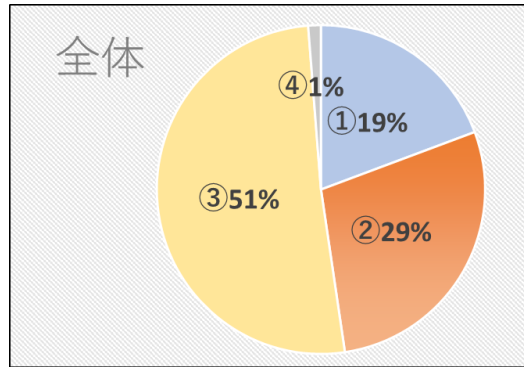




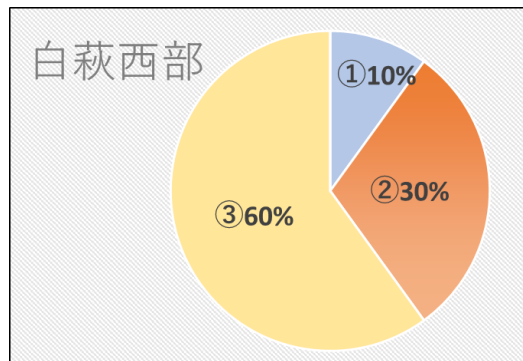
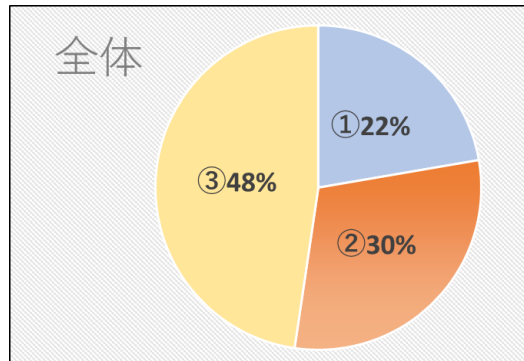
義務教育学校について



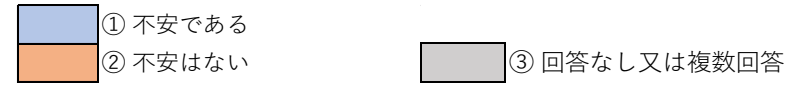
[小学校]



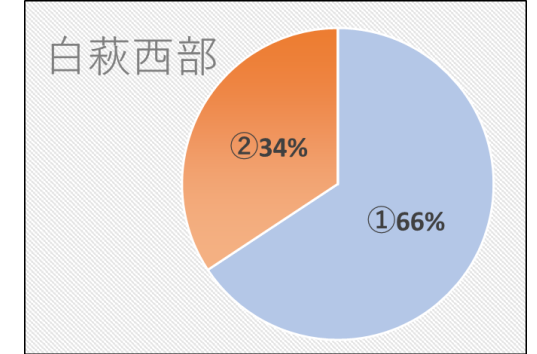
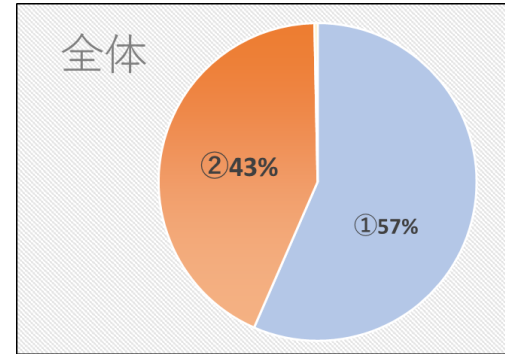
[保育所 (園)]



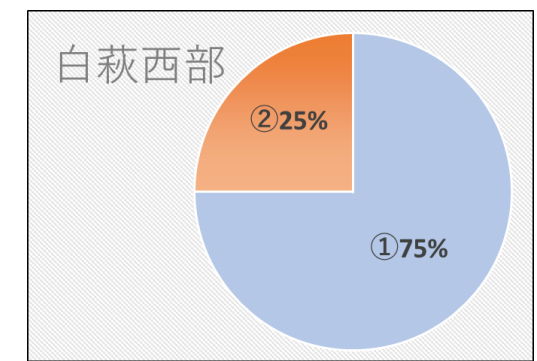
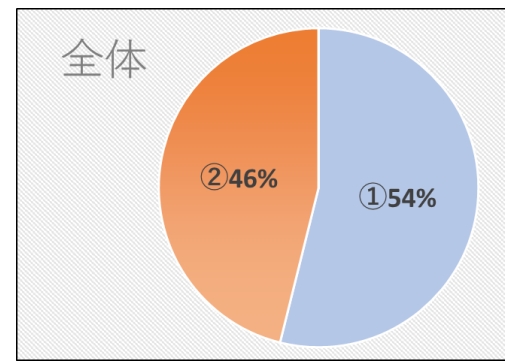
小学校の再編、統廃合によって地域が衰退しないか不安だ



[小学校]



[保育所 (園)]



『町内児童数の推移など』

※表中「R10」における児童数等は、令和3年度中の出生予定数を
基に試算したものとなっています。

町内児童数の推移予測(学校別児童総数) 令和4年3月現在

| | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 相ノ木 | 128 | 118 | 115 | 110 | 109 | 102 | 96 |
| 上市中央 | 304 | 286 | 290 | 274 | 254 | 234 | 207 |
| 南加積 | 102 | 91 | 84 | 75 | 77 | 67 | 64 |
| 宮川 | 128 | 133 | 127 | 121 | 119 | 119 | 111 |
| 白萩西部 | 44 | 46 | 45 | 46 | 45 | 46 | 39 |
| (内、町営住宅) | (21) | (22) | (22) | (24) | (24) | (27) | (24) |
| 陽南 | 51 | 49 | 41 | 36 | 35 | 30 | 30 |
| (内、町営住宅) | (14) | (12) | (10) | (11) | (11) | (7) | (10) |
| 合計 | 757 | 723 | 702 | 662 | 639 | 598 | 547 |



町内小学校に通学する児童数の推移予測(年齢別※学年、年齢は令和4年度時点 参考) 令和4年3月現在

| 学年 入学年度 学校名 | 小6 | 小5 | 小4 | 小3 | 小2 | 小1 | 年長 | 年中 | 年少 | 3歳 | 2歳 | 1歳 |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| 相ノ木 | 26 | 24 | 23 | 19 | 23 | 14 | 17 | 21 | 16 | 14 | 13 | 15 |
| 上市中央 | 57 | 50 | 43 | 56 | 47 | 51 | 38 | 51 | 31 | 36 | 28 | 23 |
| 南加積 | 21 | 16 | 20 | 11 | 18 | 16 | 14 | 9 | 11 | 13 | 10 | 7 |
| 宮川 | 18 | 27 | 23 | 29 | 12 | 19 | 23 | 21 | 17 | 27 | 12 | 11 |
| 白萩西部 | 6 | 9 | 6 | 7 | 4 | 12 | 8 | 8 | 7 | 6 | 5 | 5 |
| (内、町営住宅) | (2) | (4) | (2) | (4) | (2) | (7) | (3) | (4) | (4) | (4) | (5) | (4) |
| 陽南 | 8 | 12 | 10 | 8 | 8 | 5 | 6 | 5 | 5 | 7 | 3 | 4 |
| (内、町営住宅) | (3) | (3) | (1) | (2) | (4) | (0) | (2) | (2) | (2) | (2) | (0) | (2) |
| 合計 | 136 | 138 | 125 | 130 | 112 | 117 | 106 | 115 | 87 | 103 | 71 | 65 |

※表中の網掛けは1学年で15名未満となる学年

町内複式学級数の推移予測

| | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 白萩西部 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 陽南 | — | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 |



公立校教員49人不足

若手の産休・育休続々

県内、1月時点

富山県内の公立小中学校と高校、特別支援学校で今年1月、教員計49人が不足していたことが23日、分かった。県教委によると、産休や育休取得が相次いだことが主な理由で、近年続々大量採用による若手教員の増加が背景にある。臨時教員の手配もままならず、管理職が教壇に立ち補っているのが現状で、教員の多忙化の原因ともなっている。

【3面に関連記事】

臨時教員も足りず 管理職が教壇に

福島課長は教頭などの管

理職が教壇に立ち穴埋めしている学校もあるといい、来年度の教員配置について「欠員なく配置できるように

県議会教育警務委

23日の県議会教育警務委員会、福島潔教職員課長が、井加田まり氏（立民・県民の会）に答弁した。

福島課長は、昨年4月の始業時点で教員の不足人数は小中校各1人だったが、今年1月に今年度で最多の49人に達したと報告。内訳は小学校29人、中学校12人、県立高と特別支援学校で計8人とした。

年度途中で多くの欠員が出たのは若手職員の育休、産休の取得が相次いだためと説明。代わりを務める臨時講師を募集しても応募が少なくカバーできなかつ

たと説明した。

県教委によると、第2次ベビーブーム世代後に大量採用された教員が定年を迎え、教員数を確保するため、近年続いた大量採用で20、30代の若手職員が増えており、育休、産休の取得が増えたとみている。

新年度採用の教員採用試験の合格者335人は、過去10年で2014年度に並んで2番目に多く、合格者が300人台となるのは10年連続。合格倍率は2・1倍で、前年度に続き、統計が残る1991年度採用以降で最低を更新し、教員の志願者減少も課題となっている。

小学校の学級編制と教員等の配置について

I 小学校の1学級の児童数について

同じ学年の児童で学級を編制

児童数の上限35人
(第6学年は40人)

小規模校等

2つの学年の児童で学級を編制

複式学級

**2つの学年を併せた児童数が15人以下
(第1学年を含む場合は8人以下)**



6 学級以上の学校に
学級数 + (1 or 2)

4学級以上の学校に
優先的に配置

II 小学校の教員等の人数について

| 学級数 | 校長 | 教頭 | 学級 担任等 | 養護教諭 | 計 |
|-----|----|----|-----------|------|----|
| 3学級 | 1人 | 1人 | 3人 | — | 5人 |
| 4 | 1 | 1 | 4 | 1 | 7 |
| 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 8 |
| 6 | 1 | 1 | 7 | 1 | 10 |
| 7 | 1 | 1 | 8 | 1 | 11 |



Ⅲ 白萩西部小学校の学級編制と教員等数（「富山県小学校学級編制基準」等より）

○令和4年度

| 学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 | 合計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|-----|
| 児童数 | 12人 | 4人 | 7人 | 6人 | 9人 | 6人 | 44人 |
| 学級数 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | 4 |

教員等8数人(校長1、教頭1、学級担任等5、養護教諭1)

学級数5
(内、支援級1)



○令和10年度

| 学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 | 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 児童数(人) | 5人 | 5人 | 6人 | 7人 | 8人 | 8人 | 39人 |
| 学級数 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | 4 |

教員等数7人(校長1、教頭1、学級担任等4)

義務教育学校と小中一貫教育校の違い



| | 義務教育学校 | 小中一貫校 |
|------|--|--|
| 修業年限 | 9年 | 小学校6年、中学校3年 |
| 組織運営 | 一人の校長、一つの教職員組織 | それぞれの学校に校長、教職員組織（一体運営のための仕組みを整えることが要件） |
| 免許 | 原則、小中の両免許状併有 | 所属する学校の免許状保有 |
| 教育課程 | 9年間の系統性、体系に配慮された教育目標により、柔軟な学年段階の区切（現行の6-3制とは異なる4-3-2や5-4等）の設定が可能となる。 | |
| 施設形態 | 施設一体型・施設隣接型・施設分離型 | |

小学校あり方検討 標準的なスケジュール

